

教職研究ゼミナール(3年)

わたしたちのゼミを紹介します

大蔵ゼミ

私たち大蔵ゼミでは、教育学について様々な角度から文献講読やアウトキャンパスを通じて学んでいます。学内でのゼミでは、教育学の古典や若者の学びに関する文献を紐解きました。アウトキャンパスでは松本市内の街歩きや公民館研究集会への参加をし、地域で学びがどう生かされているかについてふれることができました。



松本市内 街歩き



田んぼでの地域活動



教育学等の文献から学ぶ

また、ゼミ生は大蔵が担当する「地域課題研究D」という授業も受講しているので、そちらの活動とゼミナールでの学びとをリンクさせている部分もあります。これまでに地域の子もたちと一緒に田植えをしたり、公民館での夏休みの学習支援をしたりしてきました。(夏休みの活動については蒼穹136号でもご紹介しています。)



持ち寄り朝食会 兼 打合せ会

こういった学びの充実のために大切にしていることは、それぞれの個性を大切にし、お互いの意見を聞き合い、ゼミ活動の際に協力し合えるような関係づくりです。そのために、3週間に1回ずつ「持ち寄り朝食会兼打合せ会」を開いています。温かい食事を一緒に囲んでいると自然と打ち解けることができるような気がします。とっておきの得意料理を持ってきてくれる学生もいて朝の楽しみです。

こういった学びを通じて一人ひとりが教育・学びについて熱く、厚く語るできるようになり、その力を自分の財産として将来に生かしてほしいと考えています。

あそびクニック in 松本大学



オープニングセレモニー「ドラムサークル」で笑顔はじける子どもたち

「あそびクニック」とは「遊び」と「ピクニック」を合わせた造語で、障がいのあるなしにかかわらず、発達と特性に応じた遊びを体験する企画です。松本大学教育学部 小林研究室が、信大医学部新生児学講座等の協力を得て、厚生労働科学研究の一環として実施いたしました。今年は8月4日に松本大学で開催され、約100人の参加がありました。小林ゼミのみならず多くの学生が企画から関わらせていただき、子どもたちと楽しく触れ合うことができました。学生たちは、いろいろな子どもたちが自然に溶け込んで交流し夢中になって遊んでいる姿から、特性に応じて子どもたちの笑顔を引き出す対応など、多くのことを学ばせていただきました。

(協力:ほっとクラブ・放課後デイサービスそだちえ・安曇野市社協)

オープンキャンパス等のお知らせ

★ オープンキャンパス 9月28日(土) 本年度最終開催

★ 入試相談会 10月12日(土) 11月29日(金) 30日(土)

※ 詳細については、松本大学ホームページ「オープンキャンパス」をご参照ください。

保護者 就職・進路説明会のお知らせ

● 期 日 10月19日(土) ● 時 間 12:30 受付開始 13:00 開催

● 対 象 3年生保護者の皆さま(詳細要項 発送済み)

● 内 容 就職活動準備&対策・近年の採用に関わる動向・本学の支援内容 等

contents

- 特別支援学校教諭免許状取得に向けて p. 2
- 梓乃森祭のお知らせ p. 3
- ボランティア活動について p. 3
- 教職研究ゼミナール p. 4
- 保護者説明会等のお知らせ p. 4

特別支援学校教諭一種免許状の取得に向けて

障害児臨床支援演習Ⅰ・Ⅱで早期現場体験

本学部では、小学校教諭一種免許状に加えて、副免許として特別支援学校教諭一種免許状が取得できるカリキュラムを用意しています。児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導ができる教員の養成を目的とし、座学だけでなく、下記のような演習・実習を設け、早期から学校教育の現場で学びを深めるようにしています。



障害児臨床支援演習Ⅰ

小・中学校の特別支援学級や通級指導教室の授業参観と支援活動を体験し、それを通じて知的障害児教育の教育課程と指導法の実際を学びます。

5月から6月にかけて、2年生27名が4回に渡って松本市内の小・中学校を訪問し、特別支援学級・通級指導教室の授業参観と支援活動を体験しました。大学に戻ってからは活動内容を振り返るグループワークを行い、その中で、子どもの集中力を削がない教室環境作りや子どもの注意を惹きつける先生の話しかけ方等、特別な支援のポイントが幾つも発表され、共有されました。

この体験を通して知的障害を中心とした特別支援教育の一端に触れるとともに、将来特別支援教育に携わっていききたいとの思いを持つことができました。

【ご協力いただいた学校】

源池小学校・清水小学校・開成中学校・鎌田中学校



源池小学校 訪問

障害児臨床支援演習Ⅱ

小・中学校の院内学級や特別支援学校の授業参観と自立活動の支援体験を通して、肢体不自由児教育・病弱虚弱教育の教育課程と指導法の実際を学びます。

3年生35名は5月から7月にかけて、安曇野市の院内学級・松本市内や下諏訪町内の特別支援学校を訪問し、重い障害のある子どもたちの生活・学習の場で、子どもたちと直に触れ合ったり、先生方や看護師さん方の指導や看護に直に触れたりすることができました。

大学に戻ってのまとめでは、子どもが発する微弱なサインをどう読み取って支援につなげていくか等、学びの幅を肢体不自由教育へ広げることができました。

ありがとうございました

【ご協力いただいた病院・学校】

県立こども病院・花田養護学校・寿台養護学校



寿台養護学校 校長先生のお話

このように、特別支援教育に関する講義、参観、演習を経て、4年次にはいよいよ特別支援学校での実習となります。

【演習以外でご協力いただいた学校】 松本盲学校・松本養護学校

2019 梓乃森祭
AZUSANOMORI FESTIVAL
10.12 SAT - 10.13 SUN



【日時】10月12日(土)
10:30～ 13:30～ 2回上映
【会場】松本大学 232教室(2号館)

教育学部 あそびのコーナー(8号館)



お祭りコーナー等
(昨年の様子より)



地域に貢献できる人材を

ボランティアからの
学びをとあして

「地域貢献」が基本理念である松本大学では、教育学部でも現場での演習や実習等を大事に考えてのカリキュラムが組まれています。他にも下記のような子どもたちに関わる様々なボランティアにも取り組んでいます。

朝日村児童館「川遊び」



今年も厳しい暑さの夏休み。朝日村の児童館では、澄んだ水の鎖川で「川遊びの日」が企画され、是非大学生のサポートをとのご依頼をいただき10名の学生が参加しました。安全面への配慮等のお役目はもちろんですが、実際は子どもたちと共に夢中になって戯れる学生の姿がありました。雄大な自然の中での「遊び」を通して、子どもたちをより一層身近に感じることができた活動でした。

子どもたちや児童館のスタッフの皆さまからは「是非また来て…」とのありがたいお言葉をいただきました。これから学びの機会にさせていただきますと思います。

子ども未来委員会



松本市子ども育成課の事業「子ども未来委員会」より、大学生のサポートがほしいとのご依頼をいただきました。小中学生・高校生の委員が月に1～2回集まり、松本市が抱えている課題やその解決策について、市長への提言もふまえて子ども目線で話し合いをしています。そこで大学生がファシリテーターの役割を担わせていただくことで、子どもたちも年齢に近い大学生の存在が身近に感じられ、活発なグループワークが展開されています。

5名の学生が参加しており、「意見を出しやすい雰囲気づくりを工夫していく過程がとても勉強になる」と、意欲的に関わっています。

他にも、児童館の学習支援、不登校児童への関わり、通学合宿での宿泊を伴うサポート等々、様々なボランティアを通して学校現場や大学だけでは学ぶことのできない体験をさせていただいています。近い将来教育に携わる学生たちであり、自らを高める学びの機会として積極的に地域に飛び出し活動しています。